

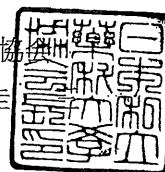
薬大協 第 50 号

平成 29 年 7 月 4 日

厚生労働省 医薬・生活衛生局長 殿

一般社団法人 日本私立薬科大学協会

会 長 井 上 圭



第 102 回薬剤師国家試験問題の検討結果について

薬学 6 年制教育が完成してから 6 回目となる第 102 回薬剤師国家試験が無事終了したことは、薬剤師国家試験の問題作成や試験実施に関わった全ての関係者の方々の努力の賜物であり、日本私立薬科大学協会としても関係各位にお礼を申し上げる次第です。

当協会では今年度も IT システムを利用して、全国の国公立薬科大学・薬学部から全ての試験問題に対する評価・意見を収集しました。その後、国家試験の出題領域に対応する 7 つの部会ごとに全大学の担当教員が一堂に会して最終評価を行い、その結果を本報告書にまとめました。今後の国家試験問題作成に、少しでもお役に立てれば幸いです。

第 102 回薬剤師国家試験では、合格率が以前の水準に回復したと言われた前回の国家試験と比べ、全体の合格率は減少しましたが、新卒者ではほぼ同程度の合格率が達成されました。今回の国家試験では、前回と同様に概ね標準的な問題が出題されており、難易度は適切で読解力、思考力、応用力を問う良問が多かったと判断されております。また、前回からの試みである実践問題における 4 連問の他に、今回は、「病態・薬物治療」と「薬理」の領域の連問である問 194-195 での新しい試みを評価する意見が有りました。第 103 回薬剤師国家試験においても、今回と同様の難易度の出題が望まれます。

実践問題については、一部の問題に状況（場面）設定にやや無理があったり、複合性の低さが指摘されましたが、前回よりも改善されているとの意見が多くありました。また、解く順番により難易度が変化する問題も指摘されており、実践問題については継続して改善を加えていただきますようお願いいたします。

下記に、厚生労働省が「不適切問題」と公表されたもの以外に、「誤りがあると判断された問題」および「特に改善を要望する内容」をまとめました。「特に改善を要望する内容」で指摘された問題の中には、「誤り」に近いものもあります。今後、これらの問題を出題する際には、内容や表現の訂正をお願いする次第です。

記

1. 誤りがあると判断された問題

- 問 56 選択肢 2 の CYFRA21-1 も乳がんの腫瘍マーカーとして有用であり、臨床応用されている。CA15-3 の積極的な有用性については、不確定な要素が多い。
- 問 65 B 型は経口感染でないと否定することはできない。
- 問 67 PMDA ホームページはリニューアルされており（平成 27 年）、「医薬品医療機器情報提供ホームページ」ではなく、「医薬品医療機器総合機構ホームページ」とすべきである。
- 問 180 選択肢 1 の他、選択肢 4 も間違いである。体温調節中枢はプロスタグランジン E2 の標的部位であって、産生部位ではない。
- 問 193 仮面高血圧では、早朝高血圧が問題であり、高血圧患者ですべて夕方の血圧が高いということはないので、2 が正解とは言えない。

2. 特に改善を要望する内容

「物理・化学・生物」の問題内容について

- 問 91 選択肢 1 の「標準自由エネルギー」は「標準ギブズエネルギー」が適切である。選択肢 3 の表現が解答者に誤解を与えやすく、適切とは言えない。
- 問 95 「L の濃度」という表現が曖昧であり、不適切である。
- 問 96 選択肢 3 のクロロホルムを加える理由については、記載してある教科書が非常に少なく、難易度が高すぎる。
- 問 100 選択肢 1 の「モノアイソトピック質量」という表現は一部の教科書に記載されているのみであり、適切とは言えない。
- 問 110 トチュウは日本薬局方に収載されている生薬であるが、重要度は低いと考えられる。インチンコウの薬理作用やトチュウが代表的な生薬の知識に該当するのかが疑問である。また、選択肢 1 の「ナス科基原植物由来生薬」という表現は不適切で、「ナス科植物を基原とする生薬」とすべきである。
- 問 218 褥瘡の治癒過程は、薬学系基礎生物の問題としては難易度が高すぎると考えられる。病態・薬物治療分野での出題が相応しい。

「衛生」の問題内容について

- 問 22 選択肢 2 の「N-アセチルアミノフルオレイン」は、「N-アセチルアミノフルオレン」の誤りである。
- 問 136 選択肢 2、3 に記されている「荷重係数」は、ICRP publication 103 の日本アイソトープ協会による邦訳版（国際放射線防護委員会の 2007 年勧告）から「加重係数」に変更されており、「加重係数」とすべきである。

「薬理」の問題内容について

問 155 選択肢 2 について、発達初期や障害された神経細胞、または特定の部位の神経細胞では、細胞内 Cl⁻濃度が細胞外に比べて高いため、受容体刺激により Cl⁻は細胞外に流出する。したがって、この選択肢は誤りとは言えない。

選択肢 4 の「 $\omega 1$ 受容体」という名称は GABA_A 受容体の 5 量体構造が明らかになった時点で意味がなくなったので、「 $\omega 1$ 受容体」は使用すべきではない。

問 156 選択肢 1 のアミトリプチンについて、現時点では疼痛抑制作用とモノアミン取込み阻害との関係性は不確定であり、そのような背景での出題は適切とは言えない。

問 160 選択肢 1 の「アポリポタンパク質 C-III の発現抑制を介して LPL の活性を亢進させる」については、NEW 薬理学等のごく一部の教科書に記載があるのみで専門的過ぎる。

選択肢 3 のイコサペント酸エチルの作用機序に関する記述が誤りとする科学的証拠が現時点では少ないため、適切とは言えない。

また、一つの設問の中に、複数の項目や作用が記載されている点(選択肢 1, 2, 5「・・・のほか、・・・」)は適切とは言えない。

「薬剤」の問題内容について

問 177、178 と問 283 は第 17 改正日本薬局方(平成 28 年 3 月 7 日告示)で新たに収載された内容が含まれおり、受験生である 6 年生には教えることができないため出題するには時期尚早ではないか、またこのような学年進行を無視した出題は避けるべきであるという意見が出された。特に法律や薬局方に関わる問題については、その内容が定着するまで出題は控えるべきであるとの意見も提示された。

問 178 収着-脱着等温線測定法は近年の過去問では見受けられず、正答は第 17 改正日本薬局方の内容であるため情報が新しすぎる。その他の選択肢は内容が細かいため、正答を導き出すというよりは誤った選択肢を選ぶような内容である。

「病態・薬物治療」の問題内容について

問 62 選択肢 2 の対症療法と選択肢 5 の抗ヒスタミン薬の投与は相互排他的でない。(対症療法のひとつに抗ヒスタミン薬が含まれる)。従って 2 でも 5 でも正解である。

問 181 「エビデンスに基づくネフローゼ症候群ガイドライン 2014」では、「抗血小板薬は、ネフローゼ症候群の血栓症予防に関する有効性は明らかではない。また、単独で尿タンパクを減少させる効果があるかどうかは明らかでない。」と記載されているので、選択肢 2 は正しいとは言えない。

問 188 カイ二乗法でも解析できる。

問 189 薬剤 B が存在する時のみ副作用発現に関係する。すなわち薬剤 B の効果を修飾

するのであれば、交絡要因ではなく効果修飾因子である可能性がある。このときは、選択肢1は誤りとなる。

問 289 リード文の症例とは無関係に結核に対する設問となっている。

問 290 問題文だけでは肥大型でないとは言えない。EF23%、NYHA3 度の方の予後がいとはとても考えられない。5年生存率50%は長期予後不良といえる。

問 292 「C型慢性肝炎の既往あり。」という表現の意味が不明である。肝硬変になったのなら、『既往』ではありえない。また、肝性脳症の治療へのカナマイシン使用は適応外処方であり、不適切である。

問 294 選択肢2のGAD抗体陽性率は罹病期間に依存する。発症5年以上の1型糖尿病では陽性率が50%以下という報告もある。問題文に発症時期を記載すべきである。

問 304 リード文の梗塞部位は不適切である。冠動脈の閉塞部位ないしは狭窄部位とするのが適切である。

「法規・制度・倫理」の問題内容について

問 80 誤答選択肢の表現が判り易く、常識から判断して誤答と容易に判断できる。消去法で正解が得られる。

以下の問題では、語句の使い方や表現が不適切であり、改善が必要である。

問 72 選択肢3の「試験研究」の範囲が不明である。選択肢5の「再審査期間」は「調査期間」とすべきである。

問 75 リード文中「なお、薬局は・・・」は「なお、薬局開設者は・・・」とすべきである。

問 76 リード文「副作用救済給付の対象」は、「副作用救済給付の種類」とすべきである。

問 147 選択肢1「医薬品の公定価格」は、正しくは「医療用医薬品の公定価格」である。

「実務」の問題内容について

実践・実務問題は、新しい薬剤師業務の領域の出題や臨床現場で現在問題になっているテーマの出題を取り入れており、社会から要望される薬剤師像に対応した設問となっている。一方、物理・化学・生物の問題との複合問題では、単に医薬品名（化合物名）だけをキーワードに取り上げるのではなく、もう少し実務の問題中の話題を取り入れて作問すれば、より良い問題が作成できると思われる。

問 200 本文から読み取れる患者の状況はCOPDの急性増悪であり、合併していることが懸念される肺炎に対する抗菌薬選択となっている。この状況における標準治療はβラクタマーゼ阻害剤配合βラクタムや第3セフェムの注射であり、マクロライドはそれに併用する位置づけである。したがって、正答となっているアジスロマイシンは誤りとは言えないものの、選択肢内に第一選択薬が一切含まれないの

は適切とは言い難い。

問 242 「臭気」は、通常、現場で測定されているが、法的根拠はない（現場での測定は定められていない）。問題文の「測定すべき」は法的根拠を問う問題であるので、「臭気」は該当しない。実務問題として現場での慣例を問うのであれば、「測定されている」などの方が良いと思われる。

問 268 持続性製剤がオキシコドンであればレスキューでもオキシコドンを使うことの方が基本であると考え。わざわざ臨床上扱いにくいフェンタニル舌下錠を選択させることに疑問を感じる。

問 274 アルベカシンの有効濃度域を知っていなければならず、国試問題としては若干難易度が高いと思われる。

問 293 臨床現場では使用されているが、カナマイシンの適応外使用である。

問 329 問題文から患者はCKDよりも急性腎不全をおこしていると考えられる。

その他の意見については、別添資料の各部会報告書にまとめられています。参考になれば幸いです。

以上